

報 告 書

開催日時	令和5年2月8日(水) 9時30分～11時43分	
開催場所	第2常任委員会室	
出席委員	細木明美委員長、原田守副委員長、津森良治委員、吉金隆委員、長谷川修二委員、舟木健治委員、三島明委員、中村ひかり委員	
	報告者	細木明美委員長
	司会者	原田守副委員長
欠席委員	川島光雅委員	
参加人数	松江市保育研究会 11名	
主な意見等	<p>①保育士の人材不足・労働環境について</p> <p>○参加者： 保育士の配置の問題や定数の問題、待遇の問題はそれぞれが独立した問題ではなく、関連していると思う。公定価格では0歳児が3人に1人、1歳児と2歳児が6人に1人、3歳児が20人に1人、4歳児と5歳児が30人に1人という配置だが、この定数では、子どもの保育が可能かどうかという厳しいものがある。園独自で負担をして、保育士の配置を増やしたり、フリーの保育士を配置したりということをやっているが、職員配置について松江市独自で特別な対応が可能なのか。</p> <p>ただ、配置基準が上げられてしまうと、人材が確保できなくて運営ができないというような矛盾もあり、非常に難しい問題である。大切な子どもの命を預かる現場としては、保育士の待遇面の改善が必要。保育士を目指す方を少しでも増やすためにも、何か配慮してもらいたい。</p> <p>○参加者： 原則、8時間開所の8時間保育だが、11時間開所している。有給を付与して、なおかつ研修にも出席させると、8時間開所の職員の配置では人が足りるわけがない。保育士が足りないのは当然の話。配置基準のことは国に言わないとどうしようもないが、周辺の市町村とスクラムを組んで、ぜひ国に訴えてもらいたい。</p> <p>○参加者： 保育士の成り手がどんどん減っており、来年度4月から新しく働いてもらえる保育士がいまだにいない。特別支援を担ってもらえる保育士もどんどん少なくなっている。昨年度までは一時預かりもしていたが、職員不足のため、今年度は休止した。</p> <p>○参加者： なぜ、保育士の成り手が減っているのかというと、今の待遇、配置基準などが敬遠されているから。保育士に求められていること(業務内容)に比べて、その待遇や仕事の大変さがあ</p>	

まりにもつらい状況。

○参加者： 0歳児が3人に1人という配置だが、1歳児は倍の6人に1人。子どもは1年間でそんなに大きくは成長しないのに、この配置基準が適正なのかという現場の声がある。フリー保育士の配置を増やした保育園に対して、補助金を上乘せするというような方法がとれるといいと思う。

○参加者： 保育士は、子どもだけではなく保護者への対応も重要な仕事の一つになっており、早朝や夜間、土曜日の勤務なども増えている。園によっては自由に休みを取得しにくいこともストレスになり、保育現場から離れていくことが問題になっている。働き方改革が叫ばれている中で、保育士の労働環境は厳しいものがあると感じている。

○参加者： 保護者や子どものケアのスキルを高めるために研修に参加したいという気持ちもあるが、保育士不足や有休の問題、またコロナ対策もあり、ゆとりがないのが現状。

○参加者： 4者（子ども、保護者、職員、経営者）の立場を平等にしないといけない。4者の立場が平等になって初めて運営がうまくいく。それらが一つでも突出してしまったりうまくいかず、職員も集まらない。

②特別支援について

○参加者： 特別支援のことも含めて、保育士の成り手がどんどん減っており、来年度4月から新しく働いてもらえる保育士がいまだにいない。特別支援を担ってもらえる保育士もどんどん少なくなってきた。昨年度までは一時預かりもしていたが、職員不足のため、今年度は休止した。

○参加者： 障がい児保育をすることにより、いろいろな加算が付くが、1人分の人件費がでない（足りない）。その足りない部分を健常児の運営費から回さないといけない現状。

○参加者： 個別対応が必要な子どもが増えてきている。フリー職員が加わったりもするが、職員に負担を掛けざるを得ない。今の配置基準ではとてもカバーできない。

③小規模施設について

○参加者： 年々子どもが減り、今は16人の子どもが通っている。同じ法人の保育所との合併の話もあるが、愛着もあるのでなくし

てほしくない。施設をなくすことは簡単だが、施設を生かしていく事をもっと考えて欲しい。子どもが1人でもいる限りは、そこをなくしてはいけないと保護者も職員も思っている。

●議 員： 園児数が少なくなったところは、公がきちんと責任をもってやれるような体制をきちんと作っていくことが大事。

○参加者： 就学前の子どもたちの育ちの中で一番大切なことは、集団の中での学びと育ちである。特に就学前で一番大切な非認知能力をいかに熟成させて 伸ばすかが大切。

●議 員： 基本的に同じ松江市の子どもたちの環境であったり、子育て環境は整備していかないといけない。これは行政の責任。地域が存続できる、あるいは保育施設が存続できるような方向性を出していく必要がある。

○参加者： 「ちょっと我慢をしよう」とか「相手の気持ちを思いやろう」といった自制心を育てる時に、3、4人の少人数ではなかなか育ちにくい。幼児教育の時に集団の中で育つことがとても大事。

④その他

○参加者： 子ども自体は変わらないが、環境が変わったこと、それから保育士自体の考え方や保護者の考え方も時代とともに変わっている。

○参加者： 障がい児保育のことも職員は一生懸命頑張っているが、やっぱり職員研修は必要。また、保護者支援の研修も必要。

○参加者： 報道では、ほんの一部の悪いところが報道され、保育園のいいところが全く報道されない。保育士が一生懸命頑張って、卒園式の時に涙ながらに子どもたちを送り出す、その6年間で、その報道で無駄にされているような気がしてとても残念。

○参加者： 幼保連携型の認定こども園に変わり、子どもへの教育を本格的に始めた。子どもに教えるために職員も勉強が必要で、保育をしながら研修に出かけるのは本当に大変だが、職員はやる気になっており、様々な研修に出かけている。

○参加者： 児童相談所や家庭相談室と連携をすることが多くなった。地域から児童相談所に虐待の疑いがあるとの通報があり、保育園にも園での様子の確認の連絡があるが、園では全くそういっ

た様子は見られない。地域、住民、近所の連携というのが希薄になっていると感じている。

○参加者： 松江市の保育所入所の申込みについて、今まで大体11月くらいから入所の申込みが始まり、12月か1月の初めぐらいには来年度の募集人数というのが分かっていた。しかし、今年度は第1次の申込みが12月15日で、結果が分かるのがつい先日だった。来年度の職員配置や職員募集、園児の数というのに左右されて、とても大変。できれば、以前のように12月には結果が分かるような、早い段階で職員募集や子どもの配置が分かるようなシステムに戻してほしい。

○参加者： 就学前のクラスを担当する職員の過重労働は否めない。保育所全体で協力体制は出来ているが、十分なゆとりを持って子どもたちと関わるということは実際難しい。ゆとりある職員配置や環境が保育現場には必要。不適切な行為を防ぐという部分では、職員が孤立化しないような体制や環境があれば、ある程度防ぐことができると思う。

○参加者： いろんな補助金をつけていただいているが、松江市独自の補助金を上げてもらいたい。園でのおむつ処分を考えているが、処分を園でした場合の補助を出して欲しい。

○参加者： 特別保育事業の中の延長保育の補助金について、6時30分以降に子どもが6人以上であれば補助金が160万円出るが、6時から6時30分までであれば30万円になる。補助金の申請をするのに、160万円の補助金が出ると仮定していろいろなものを整えていくのと、30万円で整えていくのと全く違う。どのように申請を出そうか迷っている。

○参加者： 大雪災害時の対応については子育て課に対応いただき、警戒レベル5の場合は閉園、レベル4の場合は園長判断で閉園出来ると保護者へ通知が出た。これは全国でも珍しく、画期的なことである。

松江市議会議長 様

令和5年2月20日

議会基本条例第7条の規定により議会報告会(意見交換会)を実施しましたので報告します。

令和4年度 議会報告会(意見交換会)

教育民生委員会委員長 細木明美